

第40回～第78回

☆放送時間☆

期間	曜日	時間帯
昭和47年7月3日～ 昭和47年9月25日	月	21時00分～ 21時56分
昭和47年10月2日～ 昭和48年3月26日	月	21時00分～ 21時55分

司会：高島忠夫（第40回～78回）

松尾ジーナ（第40回～65回）

磯野洋子（第67回～78回）

☆凡例☆

- | | |
|-------------|-------|
| ①サブタイトル・放送回 | ②出演者 |
| ③曲目（歌唱者）（※） | ④放送概要 |

※出演順が判明している回は、冒頭に太字で（出演順）と記入）

昭和47年

昭和47年7月3日

- ①「郷愁の愛唱歌集」 #40
- ②尾崎紀世彦、西郷輝彦、ちあきなおみ、ベッツィ&クリス、にしきのあきら
- ③「麦と兵隊」(不明)
- ④ 同年7月9日付読売新聞東京版朝刊に、「お粗末につぼんの歌」と題した視聴者(会社員男性(41歳))からの投書が以下のとおり掲載されている。

NET三日夜の「につぼんの歌」のお粗末さにはがっかりした。「麦と兵隊」はじめ、歌った人たちの力不足のためだろう。歌唱力のない歌手を引っ張り出してこの種の歌を歌わせても茶番になってしまう。この種の歌はやはり、声楽家を使ったほうがいいのではないだろうか。

昭和47年7月10日

- ①「さすらいの艶歌決定版！」 #41
- ②江利チエミ、青江三奈、水前寺清子、ヒデとロザンナ、鹿内孝、欧陽菲菲
- ③不明
- ④詳細不明

昭和47年7月17日

- ①「御存じ! 股旅ソングでござんす」 #42
- ②ディック・ミネ、橋幸夫、五木ひろし、安倍律子、美川憲一、ちあきなおみ
- ③不明
- ④詳細不明

昭和47年7月24日

- ①「御当地ソング・東京編」 #43
- ②灰田勝彦、水原弘、三田明、鶴岡雅義と東京ロマンチカ、和田アキ子、日吉ミミ、灰田有紀彦
- ③「真赤な封筒」(灰田)、「太陽の恋人たち」(三田)、「夏の夜のサンバ」(和田)
- ④詳細不明

昭和47年7月31日

- ①「あゝ涙の流し唄」 #44
- ②加山雄三、菅原洋一、伊東ゆかり、都はるみ、青江三奈、ちあきなおみ
- ③不明
- ④詳細不明

昭和47年8月7日

- ①「歌のバカンス旅行／村田英雄・男の勝負」 # 45
- ②村田英雄、朝丘雪路、三田明、都はるみ、佐良直美、野村真樹
- ③不明
- ④詳細不明

昭和47年8月14日

- ①「男と女の哀愁夜曲／大阪恋唄」 # 46
- ②フランク永井、坂本スミ子、青江三奈、由紀さおり、五木ひろし、森田克子とザ・プリティーズ
- ③不明
- ④詳細不明

昭和47年8月21日

- ①「懐しの童謡唱歌名曲集／近江俊郎・ゴールデンアルバム」 # 47
- ②近江俊郎、坂本九、伊東ゆかり、ピンキー、にしきのあきら、川田正子、音羽ゆりかご会
- ③不明
- ④詳細不明

昭和47年8月28日

- ①「艶姿・日本調祭り」 # 48
- ②高田浩吉、神楽坂はん子、神楽坂浮子、笹みどり、大月みやこ、小松みどり
- ③不明
- ④ 放送当日の朝日新聞大阪版に小唄勝太郎の出演記載があるが、実際に出演していたかどうか不明。

昭和47年9月4日

- ①「涙の波止場恋唄」 # 49
- ②渡辺はま子、北島三郎、渚ゆう子、美川憲一、黒沢明とロス・プリモス、ちあきなおみ
- ③「なみだ船」(北島)、「出船」(渚)、「いとしあの星」(渡辺)
- ④ 第一部は歌謡曲につきものの波止場ものを特集。
第二部は渡辺はま子ゴールデンアルバム。
第三部は美川憲一ら出演歌手による新曲メドレーで、心にしみる歌、明日の思い出につながる歌を紹介する。

昭和47年

昭和47年9月11日

- ①「なつかしの青春歌謡」 #50
- ②小畑実、菅原都々子、岡本敦郎、榎本美佐江、藤島桓夫、松山恵子、三浦洗一
- ③「白い花の咲く頃」(不明)、「月がとっても青いから」(不明)、「高原の駅よさようなら」(不明)
- ④ 小畑実、藤島桓夫、菅原都々子、松山恵子ら往年の人気歌手10人を集めて四部構成で送るなつメロ特集。
「白い花の咲く頃」「月がとっても青いから」「高原の駅よさようなら」など青春の歌を中心に送る。

昭和47年9月18日

- ①「艶歌・昭和任侠伝／慕情・長崎の歌」 #51
- ②北島三郎、三田明、ちあきなおみ、五木ひろし、野路由紀子、セルスターズ、
ミュージカル・アカデミー
- ③不明
- ④ 第一部は「艶歌・昭和任侠伝」。
第二部は「ご当地ソング長崎編」。
第三部は「新曲パレード」。

昭和47年9月25日

- ①「愛のデュエット／ミネ・フランク酒場の恋唄」 #52
- ②ディック・ミネ、フランク永井、藤圭子、白川奈美、ヒデとロザンナ、和田アキ子
- ③不明
- ④詳細不明

昭和47年10月2日

- ①「ご当地ソング・ベスト5!!／思い出の日本映画主題歌集」 #53
- ②藤山一郎、ペギー葉山、青江三奈、美川憲一、ちあきなおみ、渚ゆう子
- ③不明
- ④詳細不明

昭和47年10月9日

- ①「東海林太郎追悼・歌声は永遠に」 #54
- ②東海林太郎 (VTR)、西村小楽天、霧島昇、渡辺はま子、小唄勝太郎、美ち奴、菊池章子、三浦洗一、
松山恵子、若原一郎、大津美子、杵屋定之丞、杵屋定二、藤田まさと、中村邦雄、日本合唱協会
- ③ **(出演順)**「赤城の子守唄」(東海林 47.1.17)、「国境の町」(東海林 47.1.17)、「
野崎小唄」(東海林 47.1.17)、「上海の街角で」(東海林 47.1.17)、「
ああ草枕幾度ぞ」(東海林 47.1.17)、「琵琶湖哀歌」(渡辺)、「名月赤城山」(美ち奴)、

「国境の町」(霧島)、「むらさき小唄」(松山)、「旅笠道中」(若原)、「お駒恋姿」(菊池)、
「湖底の故郷」(大津)、「麦と兵隊」(三浦)、「野崎小唄」(勝太郎)、「赤城の子守唄」(全員)

- ④ 去る10月4日に亡くなった東海林太郎の在りし日の姿を、東海林と縁の深かった数々のゲストとともに偲ぶ。

東海林が出演した同年1月17日放送分のVTRを流すとともに、ゲストから東海林との思い出を聞き、東海林の歌を歌ってもらう。

なお、『週刊TVガイド』の当日の番組表には、三波春夫、三橋美智也、春日八郎らが出演した翌週のプログラム内容が記載されており、東海林の死により急遽放送内容を変更したことが推察される。

昭和47年10月16日

- ① 「三波春夫・明治大正はやり唄／春日・三橋ヒットアルバム／中山晋平名曲選」 #55
② 三波春夫、三橋美智也、春日八郎、菅原洋一、内山田洋とクール・ファイブ
③ 不明
④ 詳細不明

昭和47年10月23日

- ① 「作詞25年・石本美由起名歌集」 #56
② 美空ひばり、石本美由起、小畑実、島倉千代子、都はるみ、神戸一郎、コロムビア・ローズ、青木光一、奈良光枝、星野哲郎
③ 不明
④ 『週刊TVガイド』の番組表では、サブタイトルが「演歌の花道・石本美由紀作品集」となっている。

昭和47年10月30日

- ① 「思い出のゴールデンヒット」 #57
② 守屋浩、松山恵子、和田弘とマヒナスターズ、大津美子、若原一郎、菊池章子、三浦洸一、三條町子
③ 不明
④ 詳細不明

昭和47年11月6日

- ① 「懐かしのビッグ・ヒット／田端義夫・リバイバル名曲選」 #58
② 田端義夫、バーブ佐竹、松尾和子、三島敏夫、三船浩、井沢八郎、若山彰
③ 「島の船唄」(田端)、「浜千鳥」(田端)、「大根月夜」(田端)、「九段の母」(田端)、「別れ船」(田端)、「ネオン川」(バーブ)、「女のなみだ唄」(バーブ)、「再会」(松尾)、「女のなみだ唄」(松尾)
④ 男心、女心を歌った“思い出のゴールデンヒット”、田端義夫のワンマンショー“バタヤンの心のリバイバル名曲選”、男と女の涙うたなど四部構成で送る。

昭和47年

第一部“思い出のゴールデンヒット”では松尾和子が「再会」、バーブ佐竹が「ネオン川」を歌い、男女の情感を歌う苦心を語る。

第二部は田端義夫のワンマンショー“バタヤンの心のリバイバル名曲選”。田端がデビュー曲「島の船唄」をはじめ、「浜千鳥」「大根月夜」「九段の母」など6曲を歌い、歌手生活33年を振り返る。

第三部はバーブ、松尾らによる「女のなみだ唄」。

最後の「リクエスト・コーナー」では、田端が当時の世相を語りながら、昭和15年にヒットした「別れ船」を披露する。

昭和47年11月13日

①「青空をうたおう／哀愁古賀メロディー」 #59

②舟木一夫、ピンキー、南沙織、青江三奈、加山雄三、ミュージカル・アカデミー

③「高校三年生」(舟木)、「サーカスの唄」(舟木)、「恋の季節」(ピンキー)、「十七歳」(南)、「青春日記」(青江)、「人生の並木路」(青江)、「影を慕いて」(青江)、「人生劇場」(加山)、「北大寮歌」(アカデミー)

④ 第一部「青空をうたおう」では舟木一夫、南沙織、加山雄三、ピンキーらが歌手になった動機や好きな歌、好きな歌手について語り合う。曲目は高校三年生からのファンレターが多いという舟木の「高校三年生」をはじめ、南の「十七歳」、ピンキーの「恋の季節」など、青春の歌を綴る。

第二部は「哀愁古賀メロディ」。青江三奈が「青春日記」「人生の並木路」「影を慕いて」、舟木が「サーカスの唄」、加山が「人生劇場」などを歌う。

第三部は「今週の話曲」。

第四部「リクエスト・コーナー」では、ミュージカル・アカデミーが「北大寮歌」を歌う。

昭和47年11月20日

①「水原弘・愛のデュエット集／港町別れ唄」 #60

②藤島桓夫、松山恵子、水原弘、由紀さおり、渚ゆう子、欧陽菲菲、ミュージカル・アカデミー

③「銀座の恋の物語」(水原・由紀・欧陽)、「二人の銀座」(水原・渚)、「初めて来た港」(藤島・松山)、「未練の波止場」(藤島・松山)、「かえりの港」(藤島・松山)、「波止場気質」(藤島・松山)、「空の神兵」(水原)

④ 水原弘のヒット曲や港にまつわる歌を特集する。

第一部「水原弘・愛のデュエット」では水原が由紀さおり、欧陽菲菲とともに「銀座の恋の物語」、渚ゆう子と「二人の銀座」などを歌う。

第二部は「港町別れ唄」。藤島桓夫、松山恵子が「初めて来た港」「未練の波止場」「かえりの港」「波止場気質」など、港にまつわる歌を集めて歌いまくる。

第三部は最近ヒットした「新曲特集」。

最後の「心の歌」は室蘭市の丹波信吉さんのリクエストで、軍歌「空の神兵」を水原が歌う。

なお、お客さまとして、ロサンゼルスでこの番組を見ているという児玉ユニーニスさんを紹介、あちらでの反響を聞く。

昭和47年11月27日

- ①「森光子・思い出の歌と共に～戦前編」 # 6 1
- ②森光子、菅原洋一、江利チエミ、三田明、坂本スミ子
- ③「赤とんぼ」(森)、「ゴンドラの唄」(森)、「並木の雨」(森・菅原)、「人生の並木路」(森)、「白い花の咲く頃」(菅原)、「北上夜曲」(菅原)、「明治一代女」(江利)、「ここに幸あり」(江利)、「新雪」(三田)
- ④ ベテラン女優森光子が、歌手森光子として登場、彼女の半生の思い出をその時々の歌に託して歌う”森光子ワンマンショー”を二回に渡って放送する。今夜は戦前編。来週はその続編を送る。今夜は菅原洋一、江利チエミ、三田明、坂本スミ子らが賛助出演。
森は「赤とんぼ」と「ゴンドラの唄」を、また菅原洋一とデュエットで「並木の雨」を歌う。江利チエミは森の大好きな歌「明治一代女」をプレゼントする。

昭和47年12月4日

- ①「チータの根性大演歌／森光子・思い出の歌と共に」 # 6 2
- ②森光子、水前寺清子、ちあきなおみ、渡哲也、西村小楽天
- ③「戦友」(森・西村)、「リンゴの唄」(森)、「星の流れに」(森)、「いっぽんどっこの唄」(水前寺)、「ゆさぶりどっこの唄」(水前寺)
- ④ 第一部は水前寺清子が「いっぽんどっこの唄」「ゆさぶりどっこの唄」などを歌う、ワンマンショー。
第二部では先週に続き森光子を特別ゲストに、彼女の戦中・戦後史を歌で綴る。戦時中、慰問歌手として活躍した思い出を語りながら、一緒に戦地を巡回した西村小楽天と「戦友」などを歌い、終戦直後流行した「リンゴの唄」「星の流れに」などを披露する。
第三部は「男の別れ唄」特集。

昭和47年12月11日

- ①「ゴールデン歌謡史キングレコード特集（前編）」 # 6 3
- ②荒井恵子、松島詩子、小畑実、江利チエミ、若原一郎、春日八郎、三橋美智也、林伊佐緒、天池真佐雄
- ③「テネシーワルツ」(江利)、「啼くな小鳩よ」(不明)
- ④ ヒット曲の歴史をシリーズとして企画、まず第一回の今夜は、キングレコード特集の前編。
第一部では、既に亡くなった岡晴夫や津村謙の持ち歌も披露しながら、当時の世相を織り込み「啼くな小鳩よ」、江利チエミの「テネシーワルツ」などのなつかしい歌を。
第二部は引退した荒井恵子が近況を語りながら、NHKラジオなどで活躍していた頃の思い出の歌を歌う。

昭和47年12月18日

- ①「ゴールデン歌謡史キングレコード特集（後編）」 #64
- ②熊倉一雄、大津美子、三船浩、ペギー葉山、倍賞千恵子、梓みちよ、大月みやこ、バーブ佐竹、中村晃子、布施明、高英男、ピンキーとキラーズ、ひばり合唱団
- ③「ゲゲゲの鬼太郎」（熊倉）、「ここに幸あり」（大津）、「南国土佐を後にして」（ペギー）、「こんにちは赤ちゃん」（梓）、「ゲゲゲの鬼太郎」（合唱団）
- ④ 前週に続き、キングレコード歌手による歌謡曲ヒット史。昭和30年から現在までのヒット曲を、ペギー葉山、倍賞千恵子、布施明ら11人の出演で特集。
曲目は、大ブームを巻き起こしたペギーの「南国土佐を後にして」、外国でもヒットした大津美子の「ここに幸あり」、三船浩の「男のブルース」、梓みちよの「こんにちは赤ちゃん」、倍賞の「下町の太陽」、中村晃子の「虹色の湖」、特別出演の熊倉一雄とひばり合唱団の「ゲゲゲの鬼太郎」など、ヒット当時のエピソードを織り込みながら聞かせる。

昭和47年12月25日

- ①「競演・艶歌十八番」 #65
- ②島倉千代子、都はるみ、青江三奈、春日八郎、美川憲一、藤圭子、大川栄策
- ③「東京の人よさようなら」（島倉）、「逢いたいなァあの人に」（島倉）、「女の海峡」（都はるみ）、「涙の連絡船」（都）、「池袋の夜」（青江）、「別れの波止場」（春日）、「別れの一本杉」（春日）、「釧路の夜」（美川）、「新宿の女」（藤）
- ④ 今夜は、日本人の心のふるさと”演歌”をベテランと新進歌手の出演で特集。
第一部「港町演歌」は、港や海に関係のある演歌の特集。春日八郎の「別れの波止場」、島倉千代子の「東京の人よさようなら」、都はるみの「女の海峡」「涙の連絡船」など。
第二部は「裏町演歌」で、藤圭子の「新宿の女」、美川憲一の「釧路の夜」、青江三奈の「池袋の夜」などが登場。
第三部は「ふるさと演歌」。春日の「別れの一本杉」、島倉の「逢いたいなァあの人に」などで人生の哀歓を味わう。

昭和48年1月1日

- ①「我が心のうた～美空ひばり・新春に歌う」 #66
- ②美空ひばり、森繁久弥、堺正章、音羽ゆりかご会
- ③ **（出演順）**「リンゴ追分」（美空）、「ゴンドラの唄」（美空）、「ジントネ」（森繁）、「銀座の雀」（森繁・美空）、「まごころ」（堺）、「あの町この町」（美空）、「砂山」（堺）、「雨降りお月さん」（美空・音羽）、「赤い靴」（堺・音羽）、「ペチカ」（音羽）、「七つの子」（美空）、「叱られて」（美空）、「故郷」（堺・音羽）、「通りゃんせ」（美空・堺・音羽）、「この道をゆく」（美空）、「悲しき口笛」（美空）、「東京キッド」（美空）、「悲しい酒」（美空）、「柔」（美空）、「人生一路」（美空）、「ある女の詩」（美空）
- ④ 第一部は“美空ひばり、森繁久弥の歌とお話のコーナー”。森繁のナレーションに続く美空の「リンゴ追分」からスタート。「ゴンドラの唄」では、間奏で森繁が詩の朗詠を行う。続いて森繁が沖縄古謡

「ジントネ」を歌う。

第二部は美空と堺正章が綴る童謡集。「あの町この町」は美空のナレーションの後、美空が歌う。続く「砂山」は美空のナレーションの後、堺が歌う。

第三部はヒット・パレード“新春美空ひばりショー”。美空の新しい歌、なつかしい歌をたっぷり歌いまくる。芸能生活三十五周年記念曲「この道をゆく」からスタート。

フィナーレは美空が今年の抱負を語り、話題曲「ある女の詩」を歌う。

なお、昨年まで高島とともに司会を務めていた松尾は、TBSテレビ系列毎週水曜の「歌と笑いでつっぱしれ！」のレギュラーでもあったが、先月13日の生放送を無断ですっぽかした影響で半年間、芸能界を活動休止となったため、この番組も降りることとなった。よって、この回の司会は高島一人であった。

昭和48年1月8日

①「忘れじの歌・古関裕而名曲選」 #67

②古関裕而、伊藤久男、藤山一郎、渡辺はま子、奈良光枝、織井茂子、岡本敦郎

③「雨のオランダ坂」(渡辺)、「憧れの郵便馬車」(岡本)、「露営の歌」(不明)、「白鳥の歌」(不明)

④ 美しいメロディーを作り続けて43年。作曲家の古関裕而の半生を、氏作曲の歌謡曲、軍歌、ホームソングなどの数々のエピソードを紹介しながらたどっていく。

古関の人となりを披露し、渡辺はま子が「雨のオランダ坂」、岡本敦郎が「憧れの郵便馬車」などを歌う。古関自身の Hammondオルガン演奏も。

この回より女性陣の司会として磯野洋子が務めることとなった。

昭和48年1月15日

①「思い出の唱歌・冬の巻／青春の詩集」 #68

②菅原洋一、ダーク・ダックス、日野てる子、野口五郎、真理ヨシコ、園まり、ロス・インディオス

③

④ 同年1月20日付毎日新聞東京版朝刊に、「ひとり涙して見る」と題した視聴者からの投書が以下のとおり掲載されている。

NETテレビ15日「にっぽんの歌・思い出の唱歌・冬の巻」は、にぎやかでケバケバしい正月番組にうんざりしていた者にとっては、とてもいい贈り物だった。とくにダーク・ダックスの小学唱歌などは、日本の正月の味の良さを思う存分味わわせてくれた。こうした純日本的な歌や番組をいつまでも続け、失いたくないものと、ひとり涙して見た。

昭和48年1月22日

①「ゴールデン歌謡史・ビクターレコード特集第一夜」 #69

②小唄勝太郎、市丸、小畑実、フランク永井、榎本美佐江、松尾和子、浜村美智子、山田真二

③不明

④詳細不明

昭和48年

昭和48年1月29日

- ①「ゴールデン歌謡史・ビクターレコード特集第二夜」 #70
- ②渡辺はま子、灰田勝彦、三浦洸一、曾根史郎、和田弘とマヒナスターズ、渡辺マリ、松島アキラ
- ③不明
- ④詳細不明

昭和48年2月5日

- ①「競演・艶歌三羽鳥／バタヤン・東海林太郎を唄う」 #71
- ②田端義夫、春日八郎、水原弘、都はるみ、西村小楽天
- ③不明
- ④詳細不明

昭和48年2月12日

- ①「ゴールデン歌謡史・テイチクレコード特集」 #72
- ②ディック・ミネ、三波春夫、石原裕次郎、菊池章子、菅原都々子、矢吹健、長津義司
- ③不明
- ④詳細不明

昭和48年2月19日

- ①「ゴールデン歌謡史・コロムビアレコード特集第一夜」 #73
- ②藤山一郎、近江俊郎、奈良光枝、池真理子、神楽坂はん子、並木路子、青木光一、花村菊江、西来路ひろみ
- ③不明
- ④ 具体的な放送内容は不明であるが、翌々週にかけて西来路ひろみが出演している。その経緯と思われる記事が、「高島忠夫夫妻が演歌を作曲」との見出しで『週刊平凡』昭和47年12月21日号に載っているため紹介したい。

高島忠夫・寿美花代のおしどり夫婦が、『夜霧』（2月10日発売）を合作、お気に入りの歌手・西来路ひろみにプレゼントした。

西来路が『にっぽんの歌』（NET）にゲスト出演したとき、一目惚れした夫妻が「そのうちきっとステキな曲をプレゼントする」と約束、実現したもの。

夫妻はこれまでもミュージカルなどで作詞作曲のマネゴトはやってきたが、本格的な演歌はこれがさいしょ。すでに発売にあわせ、西来路を『にっぽんの歌』にレギュラー出演させるなどの段取りもつけた。

この回よりも前に西来路が当番組に出演したのは、高島が司会になる前の昭和47年3月6日放送回（第23回）のみのため、この回をテレビで視聴して「一目惚れ」したのであろうか。

昭和48年2月26日

- ①「ゴールデン歌謡史・コロムビアレコード特集第二夜」 #74
- ②霧島昇、島倉千代子、岡本敦郎、織井茂子、ちあきなおみ、アントニオ古賀、西来路ひろみ
- ③不明
- ④詳細不明

昭和48年3月5日

- ①「あゆみと明の十年史／なつかしのラブ・ソング／思い出の童謡集」 #75
- ②二葉あき子、ペギー葉山、いしだあゆみ、三田明、川田正子、川田孝子、西来路ひろみ、音羽ゆりかご会
- ③不明
- ④詳細不明

昭和48年3月12日

- ①「ゴールデン歌謡史・クラウンレコード特集」 #76
- ②北島三郎、西郷輝彦、水前寺清子、美川憲一、石橋正次、笹みどり
- ③不明
- ④詳細不明

昭和48年3月19日

- ①「御存じ！花の大演歌」 #77
- ②春日八郎、村田英雄、松山恵子、畠山みどり、都はるみ
- ③不明
- ④詳細不明

昭和48年3月26日

- ①「思い出のメロディ、青江・ちあき歌合戦！／小林旭・ヒットを歌う！」 #78
- ②小林旭、青江三奈、ちあきなおみ
- ③不明
- ④詳細不明